

地区だより

…………… 令和元年12月1日発行

# ちゅうおう

<地区人口と世帯数>

男 19,366人 女 20,757人  
計 40,123人  
世帯数：20,973世帯  
(11月1日現在)

2019  
12月号

## 市からのお知らせ

【編集発行】

福島市役所広聴広報課  
〒960-8601 福島市五老内町3-1  
☎525-3710 ㊟536-9828

## 台風19号による中央地区の被害状況

■問/市民協働課 ☎525-3731

10月12～13日にかけて本市を襲った台風19号による、中央地区の被害状況(10月27日現在把握しているもの)は以下のとおりです。

なお、中央地区では中央学習センター、三河台学習センター、市保健福祉センター(※)などに避難所が開設されました。※は福祉避難所



▲冠水の被害を受けた福島第一中学校の校庭

### 1. 家屋などの被害状況

#### (1)住居(家屋調査判定済み)

床上浸水 18件  
床下浸水 20件

#### (2)公共施設

床上浸水 2件  
浸水被害 5件  
(敷地内冠水など)

### 2. その他の被害状況

土砂堆積 1件  
土砂崩れ 1件  
道路冠水 7件



## 名所案内看板の説明内容を作成しました

～中央西地区地域の個性を生かしたまちづくり～

■問/市民協働課 ☎525-3731

中央西地区まちづくり計画推進懇談会では、地域の皆さんの親睦を深めるとともに、地区の神社や史跡、歴史などを知り、地域への愛着をさらに高めてもらうため「史跡探訪マップと名所案内看板の作成」に取り組んでいます。



▲熱心に説明内容を検討する歴史愛好会の皆さん

昨年度に引き続き「史跡探訪マップ」に掲載されている史跡の名所案内看板の設置を進めており、地域の皆さんに興味深く史跡を見てもらえるよう、三河台歴史愛好会の皆さんが史跡ひとつひとつに意見を交わし、案内看板の説明内容を作成しました。

今後、史跡管理者のご協力をいただき、年内の設置を目指します。

### 今年度設置箇所

- ①立石権現(板碑)【野田町四丁目】
- ②八田神社【野田町八天】 ③太田稻荷神社【太田町】
- ④道祖神【野田町一丁目】 ⑤矢剣神社【矢剣町】

※設置箇所の詳細は市ホームページに掲載の「史跡探訪マップ」をご覧ください。

## 中央地区町会連合会視察研修を開催

中央地区町会連合会では、10月8・9日に視察研修を行い、神奈川県相模原市を訪問しました。

相模原市自治会連合会の町会加入促進の取り組みでは、市、自治会連合会、不動産関係3団体の5者で協定を締結していることやホームページを立ち上げ、住所から町内会を検索できるようにしているなど、本市でも参考となる取り組みを伺うことができました。

また、相模原市自治会連合会の役員と、町会加入促進、役員の後継者不足問題など、両市に共通する課題について活発な意見交換を行いました。

■問/市民協働課 ☎525-3731



▲相模原市の視察であいさつをする引地洲夫会長

# 中央学習センターからのお知らせ

【編集】福島市中央学習センター  
〒960-8018 福島市松木町1番7号  
☎534-6631 ☎533-7592

令和元年度

## こどもスキー教室を開催します



- と き：令和2年1月18日(土)・19日(日)《日帰り》  
午前8時15分～午後4時30分
  - と ころ：二本松塩沢スキー場
  - 対 象：中央地区に住んでいるか、中央地区の学校に通っている小学校3年生～6年生
  - 定 員：30名(先着順)
  - 参加費：5,500円(リフト代、昼食代など)  
\*スキーセット、ウェアセット、フルセットのレンタルを希望される方は別途料金がかかります。
  - 申込方法：令和元年12月12日(木)午前9時より中央学習センター窓口で受付します。  
\*電話での受付はいたしません。
- \*詳細は、各学校から配布されるチラシをご覧ください。

## 中央地区文化祭を開催しました

10月5日(土)・6日(日)に、第50回中央地区文化祭を、11月17日(日)に、文化祭芸能発表会を開催いたしました。

作品展示や芸能発表では、利用団体のみなさんの日頃の学習の成果が披露されました。こども広場、模擬店、バザーやお茶席にも多くの来場者で賑わいました。

また、第50回を記念したセレモニーでは、「オカリナず・ふくしま」「コーラスすばる」「五十辺太鼓保存会」「福島シンフォニックアンサンブル」のみなさんの合唱、演奏等が披露され、大いに盛り上がりました。



### 作品展示の会場を福島四中生ボランティアのみなさんが準備

文化祭開催にあたり、福島第四中学校生徒42名の方にパネルや机の設置の協力をいただきました。

ありがとうございました。心から感謝申し上げます。



## 歴史コラム『これを学んで福島通になろう』

郷土史家 江代正一氏

### 第7回「曾根田村の小字」

曾根田村は、上杉時代(慶長3年(1598)～寛文3年(1663))福島城代本庄繁長にとって伊達政宗の侵攻を防御する戦略的な重要な村であった。この村には福島と米沢を結ぶ米沢街道が通っており、村の中央部には当時旧松川が流れていた(川は最大の防御)。伊達政宗の戦略は米沢からの援軍を分断するために、米沢街道を進み福島城下を攻略するため、陣場(陣場町)で本庄繁長の軍と戦ったとされる。曾根田村は上杉時代以前、曾根田という領域が大きかったが、開拓が進むと小字名が細かく分かれていった。小字は、行政区の最少単位の地名で自然的地名と人為的地名とがあるが、曾根田村には30カ所の小字名がある。村名の由来は、大和言葉では細長い河岸段丘(旧松川)の意味で、その中心に曾根田の天神様が祀られている。小字名には特に軍事関係の地名と旧松川の川道に関する地名がある。

### 岩代国信夫郡曾根田村全図



〔福島市史料叢書 第38輯 福島の小字〕より引用

- ◎軍事関係の地名は、「凱陣」(がいじん)(戦いに勝って軍隊を引き揚げ自陣に帰ること)、「榎枿」(こまよせ)(騎馬が進入を防御する木の柵)、「丘島」(おかたい)(防御するための小高い場所)、「古館」(ふるだて)(上杉時代の砦で重要な米沢街道筋にある)、「兵庫田」(ひょうごだ)(武器庫)、「陣場」(じんば)(伊達軍の進入を抑える防御陣地)、「貝吹田」(かいふきだ)(法螺貝、軍を移動するための合図)、「雁俣」(かりまた)(矢の先はU字になった形状の武器)、「殿田」(とのだ)(身分が高い人の住まい)
  - ◎自然的地名(旧松川に関する小字)は、「坊井川」(ぼういがわ)、「浜江場」(はまえば)(川のほとり)、「雨籠」(あまおくみ)(川が細長く流れている所)、「石貝」(いしがい)(旧松川の川道跡(砂礫))
- 地名とは、各村々とその土地の歴史、政治、自然、風水害などを表す証明である。町村合併等により、何丁目、何町と名前が変わると、どのようなところであったかわからなくなるというのが現状である。